

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

- ◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
- ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
- ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134
e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
- ◇点 鐘 山田 利明会長
- ◇ソング 君が代・奉仕の理想 **ロータリーは機会の扉を開く**



Rotary Opens Opportunities

第1525回例会 令和2年11月10日(火)

ガバナー公式訪問

【会長の時間】

先日地区大会に参加させて頂きました。印象に残った事をお話させて頂きます。

私の趣味は山登りです。三浦雄一郎さんが来るという事で楽しみにしていましたが、北海道の病院からリモートでした。息子さんの三浦ごうとさんが実際に来られて、40分くらいお話をしました。かなりあの人は危険な所に行っています。私もかなり危険な穂高、谷川とか行っていましたが、そんなものではなく、デスゾーン、空気のない所に行きますから、どんな訓練をしているのかなと興味がありました。その中で高い山でトイレに行くのはどうするのかなど。最後にその話が出ました。男性はキジを撃ちに行くと。女性はお花を摘みに行くと。我々はトイレのない所に行くので、女性と一緒にの事もありますので、そういった良い言葉があります。

危険な所に行くことユーモアが大事です。緊張している所で緊張すると事故が起こります。リラックスするようなユーモアの言葉が大事だなと感じました。

あとは90才近い年齢だと思しますので、死なないで現在まで続けています。冒険家はある程度で亡くなる方が多いです。無理をするからです。三浦さんはそういった事無く続けているので、基礎的な準備をしているんだとリモートの中から感じました。そんな感想です。

今回の地区大会では映像を使ってリモートでやると。それも見る事が出来て非常に良かったと思っています。

山田 利明



【秩父RC会長】

太田 雅孝様

皆さん、こんにちは。本日はガバナー公式訪問です。相原ガバナー、新島ガバナー補佐、高橋地区副幹事をお迎えしての例会になります。

季節としては秋深まる時期です。コロナの状況に関しては、まだまだのようです。また冬に向かって乾燥、インフルエンザに十分注意してこの冬を乗り切ってくださいと思います。

9月の段階でビデオに接して、相原ガバナーの想いは理解して頂いたと思います。また相原ガバナーのお父様と秩父とのご縁、武甲山のスケッチなど、大変深く、そして当時から秩父ロータリークラブのメンバーもお三方いらっしゃいます。

私の方からは2点ほどお礼申し上げたいと思います。まずチャリティーゴルフです。総勢218名のご参加を頂きました。異例と言いましたが、2日間に渡り、多少不手際もございましたが、無事に終了する事が出来ました。本日の週報にもありますが、3つほど寄贈、寄付をさせて頂いております。1つは医師会に医療用テント一式、2つ目は継続しております社会福祉協議会への寄付、3点目は今回特別に設けましたが秩父市の幼保園、こども園に加湿器機能付空気清浄機を20台、2番と3番に関しては昨日秩父市長、社会福祉協議会にお届け致しました。ありがとうございました。

2点目は11月3日に地区大会がございました。このような状況の中で盛大に、また安全に配慮した大会ではなかったかなと思っております。ガバナーはじめ皆様方が大変な思いをされたのではないかなと思っております。これも皆様にご参加して頂いた事を有り難く思っております。

後ほど例会終了後にクラブ協議会を開催いたします。私を含めて4名の方にそれぞれのテー



マに基づいてスピーチをする予定です。少々お時間も長くなりますが、よろしくお願ひいたします。今日1日よろしくお願ひ致します。

【幹事報告】

高田 富康



今日は合同でのガバナー公式訪問となっております、秩父の皆様方には大変お世話になります。特に幹事報告はありません。よろしくお願ひ致します。

ガバナー卓話

R I 第2570地区



ガバナー 相原 茂吉様

皆さん、こんにちは。11月3日に地区大会を行いました、そのご報告をさせていただきます。そもそも地区大会は、ロータリー年度の最も重要な行事の一つです。約560名くらいの会員にご出席頂きまして、大いに盛り上がりました。来られなかった方にはリモートで実況中継を致しまして、全国の同期のガバナーの皆さん等にもリモートで見させて頂きました。秩父と皆野両クラブの25名くらいの方に出席頂きまして、会長、幹事さんには本会議からご足労頂きました。ありがとうございました。

4月頃には地区大会は無理なのではないかと思っていました。全国のほとんどの地区は来春に地区大会を延期しておりました。埼玉の都心に近い所で11月にやるという事は無謀なのではないかという事で、ましてやガバナーはR Iの役員です。R Iとしては会員の安全と安心を最優先するという要請がきておりますので、難しいかなと思っていました。もし地区大会でクラスターが発生してロータリーに大きなダメージを与えたら、末代までの禍根になってしまい、皆さんにご迷惑を掛けてしまうという事で悩んでいました。その時に本庄RCの加藤パストガバナーに相談したところ「あなたの気持ちは分かる。鈴木年度も地区大会をやらなかったし、例会を休んでいる所も多いし、皆さんやってもらいたい気持ちもあるだろう。まずやるという事で計画をして、間際になって難しかったら中止すればいいんじゃないの。是々非々で考えたら」と。その時に私の腹は決まりました。やるという事で準備を始めました。

地区大会はガバナー主催ですが、川越RCが主体になります。クラブの協力がないと絶対に出来ません。私がガバナーを引き受けた時に、理事会ではっきりと川越RCの皆さんは私がガバナーで本当にいいのですかと確認しました。次にガバナーを引き受けるに当たりまして、クラブの協力がなかったらガバナーは何も出来な

いという事で、クラブは全面的に協力してくれるんですねという確認をしまして、もちろんだという事で引き受けました。

しかしながら実行委員会を立ち上げて始めてのようですが、なかなか盛り上がりなかったのですが、9月の終わり頃になって気運が高まってきました。仮に延期しても開催出来るかどうか分からないという状況の中で、社会の空気がGO TO トラベルですとか、イベントを共有するとか自粛が解除される空気が出始めまして、地区大会をやっても大丈夫だという雰囲気になって、川越市の感染予防ガイドラインを遵守するという形で始めました。

地区大会をやってみて、感じたことですが、今まで他人事だった人達との連帯感が強まりました。三浦雄一郎さんの講演の準備、会長の設定、駐車場の手配、お弁当、トイレ、机の下げ札、受付等、知事への手配等たくさんありまして、驚きました。しかし、みんなだんだんロータリーに燃えてきてくれました。

ロータリークラブの会員は、地元の経営者、大手企業の支店長さん等ですので、どうかと思いましたが、皆さん、縁の下の力持ちをしつかりとやってくれました。そして地区大会という指にとまってくられて、ベクトルは一つに定まりました。終わって、打ち上げをやりましたが、本当に盛り上がりました。多くの人から良い地区大会だねと褒められました。特にボールペンが褒められました。1,600本格安で用意させて頂きました。高畑さん、ありがとうございました。

ロータリーに関して感心が薄かった人達も川越RCに入って良かったと言ってくれる人も出始めました。間違いなく川越RCのメンバーは新しい友人が増えまして、皆さんとの距離が近くなって、友情が芽生え思います。

水村エレクト、村田ノミニが決まっていますが、デジグネートはぜひ秩父から出して頂いて、秩父で地区大会をやれば、盛り上がると思います。

ガバナーのもう一つの大切な行事ですが、公式訪問です。本日で47クラブ目です。公式訪問で、まずすべき事はR I会長のテーマと趣旨、地区のテーマと方針を皆さんにお伝えしまして、クラブの活性化と会員のモチベーションを上げる事です。

今年度のR I会長、ホルガー・クラックさん、ドイツ人で不動産業、67才、テーマは「Rotary Opens Opportunities」ロータリーは機会の扉を開くです。Chanceではなく、なぜOpportunitiesにしたのかという事ですが、Chanceは偶然に訪れる機会だそうです。Opportunitiesは自分の手でつかみ取る機会だそうです。従ってロータリーには多くの可能性がある。そこに扉を開いて自分の手でしっかりと機会を掴みましょう。そして素晴らしい人生を送りましょう。これがホルガー・クラックさんのテーマだと解釈致しました。そして太田会長のテーマは「秩父ロータリーはあなたの人生の機会を開きます」となっています。ロータリーはいろんな機会がありますので、自分の手で掴んで下さいという事です。

私自身ですが、2005年川越RCに入会致しました。本当に大きな機会に恵まれ、ガバナーまで拝命する立場になってしまいました。

ご承知の通り、ガバナーになる7月前に3つの事業をやらなくてはなりません。地区チーム研修セミナー、PETS、地区研修協議会です。地区研修協議会は、クラブの会長、幹事、各役員、地区の役員がそろって次の年のテーマをしっかり把握して、準備をする重要な会議です。私としても力を入れていました。川越RCの三室戸さんという方がいらっしゃって、東邦音大の理事長でしたので、4月に東邦音大を借りてやろうと準備をしていましたが、ところが4月頃はコロナ危機のために出来ませんでした。緊急事態宣言、学校休校、甲子園中止、オリンピックも中止、ほとんど自粛や中止になってしまいました。

その頃7月から始まる新年度がどうなるか気をもみました。年度が始まって北と南では相当温度差がありました。南の第2、第3グループでは未だに会場に銀行が多かったので、会場がないと。例会の会場探しで未だに苦労されている所があります。一方北の方では従来通りで、マスクをしているけれどもやっている事は今までと同じという事で、和気藹々とやっているという感じでした。

公式訪問は各クラブの実情に沿った形で行われています。たとえば、所沢の公式訪問ですが、4クラブ合同ですので、会長、幹事、3年未満の会員だけでした。2つのカメラがあり、他の会員の方にはリモートで例会の様子を放映するという形でした。

ガバナーの役目は公式訪問等で地区やクラブを活性化する事ですが、年度の前に心配した事はコロナで多くの会員が退会するのではないかという心配がありました。400名くらい辞めるのではないかという話のありました。孟子の言葉に「恒産なくして恒心なし」という言葉があります。一定の職業がなかったり、物質面の安定がなかったりすると、正しく落ち着いた心を持つ事が出来ないというたとえだそうです。私達ロータリアンは職業を基本としておりますので、今回のコロナで経済的精神的ダメージを受けている方が多いと思っており、多くの退会者が出るのではないかと心配しておりました。昨年7月が始まった時に1,615名でした。6月の中旬頃には1,500名を切ったらしいです。今年7月1日には1,500名ちょっとになり、現在は1,596名までに戻りました。ほぼほぼ昨年7月と同じくらいの数字になりました。私の心配は杞憂だったんだなと思ったわけです。この事実はロータリーの魅力以外の何者でもないと思います。

あるクラブの会長は、事業計画書の中で人々をロータリーに引きつけるのは友情と人脈づくりの機会であると語られております。まさに真実だと思います。多くの公式訪問で、この地区には熱い思いのロータリアンが大勢いらっしゃる事を知りました。長年に渡る国際奉仕事業、青少年奉仕活動、ポリオ根絶活動などに多くの方が活躍されております。

秩父ではロータリー財団寄付者に星野進さん

は31回のポールハリスフェローになられています。故金子千侍さんは115回の米山功労者で、今でも金子パストガバナーが始められた米山記念奨学生のロータリーの森清掃事業が継続されており、当地区の一大事業になっております。こういったリーダーの熱い思いが私達のロータリーを支えている事に他なりません。

あるクラブでは今年度の事業計画書の会長方針に「茶道の相客に心せよ」という言葉が紹介されておりました。お茶というものはどんなに贅沢な道具を用いて、どんなに丁寧にどんなに素晴らしい場所でやっても、そこに心がなくてお茶とは言えないと。心とはその場に居合わせた人に対して気遣う思いやりが茶の湯の神髄であると書かれていました。更にこの事は一期一会の精神が根底にあるとありました。ご承知の通り一期一会、生涯に一回しかない茶会だと思っ

て、主客を心を込めてもてなす事です。皆様の年度計画書の第1ページに書かれていますようにロータリーの目的の第1項目は知り合いを広めることによって奉仕の機会とするとあります。出合いを大切にす一期一会に通ずるものであります。奉仕の理念は相手に事を思いやり、他人のために尽くすことです。まさに茶道における相客の心に相通ずるものだなと感じました。

今コロナでほとんどの会社が大なり小なり影響を受けていると思います。私の会社も酪農、大豆を中心とした販売をしているものですから影響を受けています。また会社が酪農ですので、超成熟産業の業界です。古い体質の業界で、会社が完全に昭和の精神を引きずっています。残業、早出は一切なし、プライベートに価値観をおく若い人にはまったく受け入れられない会社です。今回のコロナで多少、そういった就職関係の環境が変化しているかもしれませんが、いずれにしても将来就業規則等の改革をしなければいけない会社のひとつである事に間違いはありません。

どうやって社員のモチベーションを上げたらいいだろうかという事で悩んでいたのですが、一番簡単なのは給料を上げるのがいいでしょうが、簡単には上げられません。それで私は3年くらい前から弊社の社員にロータリーの職業奉仕の理念を話す事を始めました。職業をする事の意義です。仕事はもちろん給料を得るためにするけれども、仕事を通じて社会に奉仕しているんだと話します。世のため、人のために立つ職業奉仕の哲学です。仕事のやり方として「最も奉仕する者、最も報われる」職業奉仕の実践の話をして。社員はそれを聞いて一応首は縦に振りますが、一応そういう話をします。私自身も初めてシェルドンの奉仕哲学を読んで「なるほどな」仕事は金を稼ぐのではなく、相手に奉仕する事だと。その見返りとして給料をもらえるんだという事を納得しました。有名は近江商人の三方良しの話もシェルドンの職業奉仕の理念と同様だと思います。

更に現代のCSR「Corporate Social Responsibility」の原点は昔から言われてきたものだなと感じました。ロータリーの扉を開く事によってシェルドンの奉仕理念とService Above

Self という二つの大切な事を学びまして、社員に対して働く事の価値、職業奉仕の理念を説くリソースを得ました。そして今回このような茶道の道に通じる事も知りました。

そして7月のある日曜日に私は大実業家の京セラの稲盛和夫氏の85才のDVDを見ました。稲盛さんは創業して、現在1兆5千億の企業に育てられました。今は産業界の指導の仕事をしていらっしやいます。30分くらいのDVDだったので、稲盛さんが最も大切にしている言葉は「利他の心」だそうです。利他を常に意識すると運が好転し、人格を作りあげ、顔つきも変わって、更に会社は一層強くなると何回もDVDの中でおっしゃっていました。司会者がリーダーにとって一番大切な事は何ですかという問いに対して、ゆっくり噛みしめるようにリーダーにとって一番大切な事は才能や能力ではない。思いやりの心だとおっしゃっていました。稲盛氏の人生観はまさにロータリーの考え方そのものです。近江商人の三方良し、利休の相客の心、稲盛氏の利他の精神、リーダーシップの考え方などすべてに共通する事は他人を思いやる心です。

ガバナーになる前のガバナーエレクトの義務研修として今年の1月に約10日間アメリカのサンディエゴに行きまして。世界中から530人のガバナーエレクトのパートナー及び研修リーダーが集まりますので約1,500名くらいの盛大な国際協議会でした。

現在のところ、当地区はガバナーエレクト、ノミニーが決まっておりますので安心なのですが、最近当地区はガバナーのなり手がまったく見つかりませんでした。国際協議会に参加して、私の次のガバナーノミニーが決まっていなかったのは全国の34地区の中で当地区だけでした。ある重鎮方からは2570地区は問題が多いねと言われたりもしました。

ガバナーの指名委員会の方から何としても次は川越から出せという強い要望により、川越RCで揉めに揉めて、本当はある先輩の方がやるはずでしたが、その先輩が辞表を胸にちらつかせて断られましたので、ダメだと。そして私に話が回ってきました。私がガバナーを受けた理由は日頃世話になっている川越RCの立原パストガバナーからやれという強制に屈しきれず受諾したと。またDVDをご覧になった方もいらっしやと思いますが、私の先代がロータリーを非常に愛してくれました。私自身、ロータリーのお陰で娘の縁談など恩恵を授かりまして、ロータリーに感謝しています。そして私は先代の養子ですので、ガバナーを引き受ける事が養子の務めであり、恩返しの気持ちで引き受けました。そのような中での研修でしたが、サンディエゴでの研修が終わった後は34人の同期のエレクトの連帯感が強まりました。始まる前の心配は自信と熱意に変わりました。ロータリーでしか出来ない多くの事を経験しました。私に新しいロータリーの扉を開いてくれました。まさしくロータリーは世界のロータリーである事を実感しました。

私の今年度のテーマは「友だちをつくろう」です。皆さんは社会的に成功した地域のリーダー

一達です。そうでない人に比べて人生における達成感や満足感が多いと思います。同時に背負っている悩み、責任などは間違いなく大きいと思います。コロナで例会が休会してもロータリーの仲間は一緒であると。楽しいからです。この事がまさにロータリーの魅力であると確信します。こんな時だからこそロータリーなんだと思って頂きたいと思います。

同じ価値観や心配事を持った仲間同士知り合い、新しい友だちをつくり、ロータリーの魅力を享受し、結果人生を豊かにする事がロータリーで最も意義があると思います。

これから予想のつかないニューノーマルになります。長い間ロータリアンは人道的奉仕、世界平和のために行動して参りました。先人達の行ってきた高潔な志は今後も継続していきたい。しかし新型コロナによって社会が変化してしまいました。このような中でロータリーはどう生き残っていくか考えていかななくてはならなくなりました。このような時に同じ立場で同じような価値観を持った仲間がいる事は強みです。苦労を分かち合い、一緒にお互いの知恵を絞っていく。難しい課題があっても一緒に乗り越えていく仲間がいる事はロータリークラブの持つ最大の価値だと思います。米山梅吉翁の言葉に「人間肉体上の福祉には第一に食物を必要とするが如く、精神上の富裕には最も友人を必要とする」とあります。

